



2025
NOFUUKU AWARDS
2025

ノウフク・アワード2025
審査委員による評価コメント

グランプリ	株式会社ココトモファーム	<ul style="list-style-type: none"> 福祉大学との連携や、米をベースとした6次産業化の実施に加え、他企業との連携による独創的で質の高い商品の開発など、地域の他の主体を巻き込む力も素晴らしく、インクルーシブな取組が行えている。 手話で接客をするサインングストアの開設など、農福連携の新たな展開をもたらしている点が高く評価できる。
準グランプリ	社会福祉法人新友会 ひまわり畑	<ul style="list-style-type: none"> 障害者数や農地面積の着実な増加、HACCP基準の加工事業の実施など、農業経営の規模・品質ともに優れ、農福連携を通じて売上高の向上につなげており、地域を支える農福商工連携モデルとして確立している。 きめ細やかな地域活動や、「学福連携」への展開、一般就労後の障害者とその家族・雇用主に対して就労定着支援を行うなど、地域と教育現場を巻き込んだ農福連携への理解促進と継続的な支援体制が持続可能な取組として高く評価できる。
	佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営体と福祉事業所の双方のニーズを丁寧に拾い上げてきたことが実績の伸びから伺えており、マッチングスキームが高く評価できる。 佐賀県のマッチング方式は、全国の中間支援組織のモデルとなり得る大きな波及力を持っている。 また、ノウフクへの豊かな可能性が感じられ、今後も農福連携を通じて幅広く地域づくりに取り組んでほしい。
	ばかばかワークス	<ul style="list-style-type: none"> 都市農業を基盤に、障害者のみならずひきこもりの状態にある者から刑務所出所者まで幅広く受け入れるユニバーサルな体制を構築しており、農福連携で都市農業のブランディングに取り組む事例として、他の参考となることが多い。 ドローンや合鴨ロボットを活用したスマート農業や、荒廃農地の再生、柔軟で創造的な表現アイデアなど、農業の価値観を刷新する取組により成果を挙げている点が高く評価できる。
優秀賞	特定非営利活動法人楽園プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> NPOが中間支援を担う点が珍しく、高工賃の実現やネットワーク拡大の姿勢が評価でき、「戦力になる存在」を掲げた自立型農福連携の取組がユニーク。 環境整備や障害者のステップアップに向けての支援体制構築に熱心に取り組んでおり、民間ならではの柔軟性と実行力を活かして農福連携を着実に前進させている。
	株式会社エール 多機能型事業所にのびのび	<ul style="list-style-type: none"> 自社農場で培った農作業のノウハウを活かし、委託先農家の農作業の細分化を行うことで、利用者に適している、かつ農家が納得できる作業提供を実現でき、施設外就労の取組を拡大している。 作業細分化により一人ひとりに適応した作業を提供するなど、自己肯定感を育む風土は応援したい。 AI搭載の全自動施肥灌水システムをシャインマスカット栽培などに活用したり、選別機の導入で出荷調整の負担を削減したりなど農業を合理化し、地域農家のニーズに応えながら関連事業を拡大する姿勢が素晴らしい。
	埼玉県立川越総合高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 総合学校と特別支援学校での農産物に関する農福連携の取組を通じて、多様な人々と共に学び育つ貴重な機会を提供している。 実際に両校の連携により、レトルトカレーの開発・販売が実現している点が面白い。 規模が小さいながら、地域の他の主体とも連携している点が素晴らしく、豊かな取組が全国の模範となってほしい。
	株式会社ビーカブー	<ul style="list-style-type: none"> 作業環境の改善や、AI搭載のプロジェクトマッピング導入により作業難易度を下げると、新しい技術を活用した業務効率化と生産性向上への取組は、障害者が農作業を行うにあたり、大いに役に立つ仕組みである。 女性や高齢者、外国人も含めた多様な人材が働きやすい職場環境が構築されている。また、特例子会社と農業者の連携の在り方が魅力的であり、更なる普及を期待する。
	特定非営利活動法人にのびのび	<ul style="list-style-type: none"> 作業の部門を多角化して多様な利用者が活躍できる場を設け、地域づくりを意識して関係者を丁寧につないでいる。 また、独自の商品開発も素晴らしい。 利用者が楽しそうな雰囲気があり、「共生型農福連携モデル」が理想的なモデルであることを体現している。 規模の拡大など、今後の発展に期待したい。
	株式会社農楽里	<ul style="list-style-type: none"> 安全な技術を通じて働きやすい環境を整備することで、利用者がスマート農業の担い手となり、収益性を高めるなど着実に実績を積み上げていて素晴らしい。スマート農業による農福連携を追求した先にある社会の姿をぜひ見たい。 自作農地の営農面積も施設外就労も一法人として規模が大きく、野草刈りなど地域貢献も行っている点が評価できる。
	社会医療法人みどり会 さんさんグリーン	<ul style="list-style-type: none"> 言語的マイノリティであるろう者が主体となり、「茶摘み」や「鷹の爪取り選手権」など話題性のあるイベントを開催。また、盲ろう者のトライアスロン大会への出場を支援するなど、スポーツとの連携も実施しており、柔軟な発想と強い訴求力による多彩な取組が素晴らしい。 碾(てん)茶や京野菜などの生産、加工、販売で成果をあげ、地域活性化にも貢献しており、福祉事業所として模範となる取組である。
フレッシュ賞	社会福祉法人みんなの輪 あいあいファームわ・は・わ田尻 ひなた農場	<ul style="list-style-type: none"> 農林水産業経営体の事業継承を通じ、就労継続支援B型事業所で養豚を行う取組が非常に珍しく、ノウフク×畜産モデルとして注目したい。 養豚は一般的に難しいとされている中で、実際に一定の規模で営んでいる点が評価できる。
	株式会社みずぼライズ	<ul style="list-style-type: none"> ポート除草、AIによるしいたけ選別機、水やりセンサーなどを導入し、ノウフク×AI・ITモデルとして、障害者の活躍の幅を広げている。また、働きやすい環境整備と収益性の向上を目指している点について評価できる。 施設外就労の受入れや障害者雇用による農福工連携を実施し、B型事業所の高工賃の目標を掲げるなど妥協しない姿勢が素晴らしい。
	JX金属コーポレートサービス株式会社 内原ファーム	<ul style="list-style-type: none"> 企業・Jリーグクラブ・農業専門学校の連携により、農業・福祉・スポーツを組み合わせた豊かな実践の展開を通じて地域活性化を目指しており、価値が高い。 JX金属の新入社員に対し、障害者が講師となる農業体験を研修として提供し、社内に障害者理解を浸透させていることや心身両面での支援体制が印象的であり、特例子会社のモデルとなる事例である。
	特定非営利活動法人笑福	<ul style="list-style-type: none"> 農業や林業、水産業の作業を、障害者やひきこもりの状態にある者の特性に合わせて振り分けることで、幅広く障害者等を受け入れることができるモデルであり、地域に役立つ農福連携のつなぎ手として 貴重な役割を果たしている。 ひきこもりの状態でなくなることや一般就労だけがゴールではなく、地域でその人がその人らしく受け入れられて暮らしていくという本質を大切にされている。
	福岡正信自然農園	<ul style="list-style-type: none"> 自然農法に実直に向き合ってきたことが農福連携と重なった縁が嬉しい。海外からの滞在者など、多様性を受け入れる風土を備えた滞在型の就農支援に農福連携を組み合わせた取組が、こだわりのある商品と相まって、ストーリー性や個性を持った農園となっている。 個人農家による委託モデルのため規模は大きくないが、PR効果は絶大であり、さらなる経営の拡大が期待できる。
チャレンジ賞	多機能型就労継続支援事業所りべら	<ul style="list-style-type: none"> 「奇跡のりんご」の木村秋則氏の自然栽培のノウハウを農福連携と掛け合わせた展開が興味深い。自然栽培を基本としたストーリーのある取組をこれからも追及してほしい。 レストラン併設のワイナリーを開設するなど、地場産業と地域環境に寄与しており、ワインモデルとしてユニーク。取組に対する障害者の貢献具合の更なる可視化に期待。
	株式会社きりりん きりんの里	<ul style="list-style-type: none"> 植林から漆塗りを含む加工までの一貫した取組で津軽塗の地場産業化と就労支援を両立させ、地域づくりと伝統文化の継承に貢献している点が評価できる。 漆という特色ある品目を主体として一步一步進めてきた努力がよく見える。これらの独創的な取組は林福連携モデルとして注目される。今後は規模拡大や工賃向上なども含めた更なる発展を期待したい。
	株式会社風鈴	<ul style="list-style-type: none"> 介護施設の高齢者が農作業を通じてリハビリテーションを行い、荒廃農地の再生や野菜の生産、ふるさと納税返礼品への活用を含む販売まで一貫して行う取組が珍しい。 長きにわたる取組である上、認知症の高齢者が役割を持って参画することで生きがいにもつながっており、従来の農福連携とは異なる介護分野との連携モデルとして評価できる。
	全国農業協同組合連合会 耕種資材部 施設園芸企画課・ゆめファーム全農こうち	<ul style="list-style-type: none"> IoT・ICTを活用したスマート農業で作者者の健康管理や次世代型の施設園芸の実証を行なっている。 農業の大規模化や、付加価値の向上のために農福連携を組み込み、農業そのものの在り方を変えていくという取組に今後期待したい。 高工賃や通年での作業、地域の福祉事業所の仕事づくりを含む農作業のパッケージ化がなされており、農福連携の分野のみならず一般農業においても参考となる、全国展開できるモデルである。
	株式会社マテリアル東海	<ul style="list-style-type: none"> 障害者と養蚕経験のある高齢者が協働して養蚕に取り組むことで県内トップレベルの蚕の生産頭数となっており、伝統的な地域産業を復活させている点でユニークな取組である。 国産かつ手作業のため工賃が高く、観光にも波及しており、養蚕モデルとして今後の動きにも期待したい。